

東京都 スポーツ推進委員だより

第125号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2022年 1月 24日

編集：情報委員会

ご挨拶



新年のごあいさつ



明けましておめでとうございます。

スポーツ推進委員の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年末の2021年、読者が選んだ日本10大ニュース（読売新聞）では「大谷翔平選手のメジャーMVP」、「東京五輪、日本は史上最多58メダル」、「新型コロナワクチン接種開始」が上位となりました。1年を通して新型コロナウイルスの脅威に晒された年でしたが、スポーツの明るい話題が上位に挙げられたことで、スポーツに関わる者としていくらか救われた思いがしました。

スポーツ推進委員に関わる事業では、関東スポーツ推進委員研究大会、全国スポーツ推進委員研究協議会が2年続けて中止となりましたが、東京都においては広域地区別研修会を始め年内に予定した研修会は、リモート形式・対面形式をその時期に適した方法を取り入れていただいたことにより、滞りなく実施することができました。これは関係の皆さまのご努力・ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

今年は十二支でいうと「寅年」、十干では「壬」となり干支は「壬寅（みずのえとら）」となるのだそうで、この2つの組み合わせである壬寅には、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさが表されていると言えるようです。

昨夏1年遅れで開催された2020東京オリンピック・パラリンピック、特にパラリンピックは、多くの人々に感動と勇気を与えてくれました。奇しくも今年は壬寅、「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組 - 2020のその先へ -」が掲げる「パラスポーツを通じた共生社会の実現」に向け、大会の成果を発展させていく絶好のタイミングと言えます。

私たちスポーツ推進委員には、障がいの有無を問わず「いつでも、どこでも、いつまでも」楽しめる取組の一翼を担っていくことが期待されています。

新型コロナウイルスのオミクロン株による新たな感染拡大が懸念されていますが、東京都スポーツ推進委員協議会は、引き継ぎ感染防止対策を図りながら、スポーツ推進委員の皆さまの資質向上に取り組んでまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

会長 新島 二三彦

社員総会



令和3年度 第3回社員総会

令和3年12月8日(水)18時30分、江東区総合区民センターにて、第3回社員総会(以下、「同総会」と称す)が実施された。

まず新島二三彦会長のご提案により、今夏お亡くなりになった監事 榎本繁雄さん(目黒区)への黙祷が行われた。続いて「新型コロナウイルスが完全に収まったとは言える状況下ではないが感染防止を図りながらのスポーツの推進と今まで積み上げてきた推進委員のチカラというものが必要となる」との発言があった。

続いてオブザーバーとして、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課課長代理 中川和歌子様のご紹介。また、情報提供として東京都広域スポーツセンター(公益財団法人東京都スポーツ文化事業団)課長 篠原信博様、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会課長 佐藤仁様並びに係長 柳橋千恵様より本日配布の資料の情報提供がなされた。

その後、定足数の確認がなされ(出席35名、委任状12名、合計47名)続いて議長の選任が行われた。

◆報告事項

1) 理事会(山本委員長)

第3回(6月9日)、第4回(7月14日)、第5回(9月8日)、第6回(10月13日)、7回(11月17日)に実施された理事会報告があった。(LINEやZoomを利用した会議)

詳細は配布資料参照

2) 各委員会(各担当委員長)

○企画総務委員会(山本委員長)

第2回(9月22日)、第3回(11月29日)にZoomを利用した会議について説明があった。

○研修委員会(中村委員長)

第7回(10月6日)、第8回(11月3日)にZoomを利用した会議について説明があった。

○情報委員会(平野委員長)

第2回(10月27日)に実施された対面会議について説明があった。

○女性委員会(岡副委員長)

第1回(12月1日)に実施された対面会議について説明があった。

3)財務報告(松田財務)

既に配布済みの令和2年度の一般会計収支決算に訂正箇所が判明した為、再度作成したものを本総会にて報告。

4)ニュースポーツ研修会(中村委員長)

6月26日(土)に開催されたニュースポーツ研修会の内容について説明があった。会場参加者44名、リモート参加者30名。

講師:桑田 丹 様(一般社団法人日本ウォーキングフットボール連盟 理事長)

講義内容:ウォーキングフットボール

場所:府中市生涯学習センター 体育館

5)令和4年度東京都広域地区別研修会事前説明会の開催(中村委員長)

7月14日(水)にZoomにて実施。昨年度、中止になったことにより広域地区別研修の輪番について2022年から2029年まで周知がなされた。

6)令和3年度東京都広域地区別研修会(各担当市区町村の社員)

1 地区2分程度の発表。

今年度の研修会はリモート型7地区、現場型2地区、リモートと現場のハイブリッド型1地区、中止1地区と様々な形式での開催にこぎつけた。

7)課題別研修会(中村委員長)

11月13日(土)に実施された課題別研修会(2部構成)の内容について説明があった。会場参加者47名、リモート参加者33名。

第1部(パネルディスカッション)

パネリスト:植田 敏郎様(公益社団法人 東京都障害者スポーツ指導者協議会 会長)

:新島 二三彦(一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会 会長)

コーディネーター :佐藤 仁様(東京都障害者スポーツ協会 課長)

テーマ:パラスポーツ普及に期待されるものは

第2部(講演)

講師:三浦 浩選手(東京2020 パラ・パワーリフティング日本代表)

テーマ:東京2020大会パラリンピアンが期待するスポーツ推進委員のかかわり方

場所:新宿NSビル 3-J会議室

8)女性委員会企画研修会(岡副委員長)

12月5日に実施された女性委員会企画研修会(2部構成)の内容について説明があった。参加者45名。

第1部(講演)

講師:田中 光哉選手(東京2020 パラテコンドー日本代表)

テーマ:パラテコンドーの魅力

第2部(グループワーク)

テーマ:障がいに応じた指導の工夫【田中選手がバドミントンをやりたいと来たら?】

場所:中野区産業振興センター

9)都スポだより124号発行(平野委員長)

7月21日に事務局より各地域に配布済み

10)その他

生涯スポーツ・体力づくり全国大会
令和4年2月に沖縄で開催されます。

受講人数、受講費用は以下の通り

現地受講 450名

オンデマンド受講 1000名

受講費用 2000円



◆確認事項

1)東京都地域スポーツ支援研修会

区部 1月15日(土) リーブラ 港区

市部 2月12日(土) アイム 立川市

全域 2月27日(日) 富士森体育館 八王子市

2)東京マラソン2021

ボランティア欠員補充 1名

ご協力可能な方は事務局までご連絡

お願いいたします。

◆協議事項

- 1)特別委員会「女性委員会」の廃止について
別紙資料をもとに新島会長から全体に説明。
廃止時期:令和4年3月31日
異議申し立て無いため、全会一致で可決。

記事 江上 郁子 情報委員会(北区)
写真 加来 剛 情報委員会(豊島区)



全国大会



第62回全国スポーツ推進委員研究協議会・表彰

令和3年度は11月18日(木)～19日(金)、佐賀県佐賀市での開催準備が進められていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下で中止となりました。令和4年度は滋賀県で開催予定です。

<受賞者の皆様>

受賞おめでとうございます

「敬称略」

<文部科学大臣表彰>



南雲千恵(新宿区)



杉山喜廣(日野市)

<スポーツ推進委員功労者表彰>



清水 学(中央区)



松田文子(豊島区)



花島誠一(江戸川区)

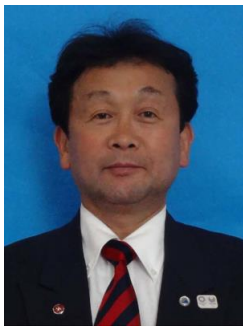


笠松文子（東大和市）



森田幸雄（羽村市）

<30年勤続表彰>



桑原敏昭（足立区）



田村真理子（西東京市）

<優良団体表彰>



北区スポーツ推進委員協議会

記事 平野 秀夫 情報委員会（江戸川区）

研修会



課題別研修会

令和3年11月13日(土)14時00分より、新宿NSビルNS会議室西ブロック3-Jにて、令和3年度課題別研修会(以下、「研修会」と称す)が実施された。

まず、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課 課長代理(地域スポーツ担当)の中川和歌子様より、同課 南課長からのメッセージが代読された。東京2020オリパラの御礼と今後のパラスポーツ普及に関して、スポーツ推進委員の活躍を改めて期待している旨の説明があった。

次に、一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会 会長 新島二三彦より、東京2020オリパラ後初めての研修となる故、実りある研修となることを期待しており、特に本日は現役パラ選手の講師からも貴重なお話が聞ける為、「参加委員の皆さまにとって、有意義な研修会になることを確信している」との挨拶があった。対面者受講者29名/リモート受講者33名/講師等演者5名/運営委員13名

【研修会内容】

＜パネルディスカッション：14:10～15:00＞

テーマ：パラスポーツ普及に期待されるものは

パネリスト：東京都障害者スポーツ指導者協議会

会長 植田 敏郎

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

会長 新島 二三彦

コーディネーター：(公社)東京都障害者スポーツ

協会 課長 佐藤 仁

東京2020後のパラスポーツについて・・・

新島) これまでのパラリンピックは、あまりメディアで取り上げてもらえなかったが、東京2020大会は、大いに盛り上がったと思う。具体的には、水泳の山田選手(女性)に関して、特に四肢に重い障がいを持っている中、一生懸命泳ぐ姿に心の底から感動をした。車椅子ラグビーの倉橋選手(女性)についても同様に感動と勇気を頂いた。また、エジプトの卓球選手に関して、使える部位(口など)を駆使して戦うなど、スポーツの可能性(力)を認識した大会であったと思う。本当に最高のパフォーマンスを見せて頂いた。そして、改めて我々がどのように地域でパラスポーツを支えるべきかを考えさせられた。

さて、これまで自分の体験から、障がい者へのスポーツ支援については「怖い」⇒「関わりたくない」というのが本音であった。その背景としては、経験の少なさが原因であり、今後、より多くの経験を(失敗も含め)積み重ねる事が必要であり、分からなければ当人に聞くということ等、一歩を踏み出すことが大切である。例えば、資格をとることにより、すべてが直接的な指導に繋がらなければならない訳でなく、障がい

に対する垣根(壁)などの自分の中にある認識が変わるきっかけになると思えば、支援の在り方においてもすこし気持ちが楽になるのではないかな。

最後に、東京都障害者スポーツ指導者協議会との密な連携を期待したい。

植田)「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に活用しろ」という有名な言葉が体现された大会であったのではないかなと思う。また、その姿をみて、支援する方、勇気をもらった方が増えてきているのではないのでしょうか。

大学生などの障がい者スポーツ資格の保持者が年々増えてきている。ただ、指導をする際には、自分の専門とされる競技ばかりではないので、多くの体験や経験をすることは肝要である。一方、区市町村で、その資格取得率にはバラツキが目立つのが課題である。引き続き、役所(行政)との連携が必要である。

今後、協議会としては、障がい特性を良く理解頂けるように、東京都やスポーツ推進委員の方々との連携を重視しながら活動の場を広げていく。また、初めての方には、段階を踏まえたプログラムを考えており、組織的な普及を目指して行きたい。



＜講演：15:10～15:45＞

テーマ：東京2020大会パラリンピアンが期待する
スポーツ推進委員のかかわり方

講師：東京2020パラリンピアン

三浦 浩選手(パラ・パワーリフティング)

これまでのご自身のご経験から、様々な障がいの特性を具体的な事例とともに交え、国際大会などでのエピソードをご教示頂いた。また、東京都チームビヨンド(チャレンジ・リサーチ・サポート・エンジョイ)について、その活動内容に関して詳細な説明があった。

講義の前半は、「障がい者を理解する」と題して、気配りや配慮などのポイント、車いすの取扱い、点字ブロックの在り方(視覚障がい者)やマスク装着のためにコミュニケーションが不自由している点(聴覚障がい者)など、実態に応じた話を多く聞くことが出来た。



講義の後半は、スポーツ推進委員とパラスポーツの在り方についてのお話を頂いた。まず、パラスポーツを支援するためには、スポーツ指導員の資格を取得することは非常に肝要であるが、最近では、スポーツ指導員の取得状況に関して、継続的に続けてくれる方（長期的な視点）をお願いするような方向性を見出しているのではないかと感じている。

講義の進め方としては、事前に18個のテーマを用意し、参加者の反応を見ながら、必要なテーマを選択し、状況を見極めながら講義が進められた。また、動画なども適切に利用され、具体的な様子が示されたことが非常に好評であった。

<閉講式：15:45～16:00>

閉会の辞を、一般社団法人東京都スポーツ推進委員会協議会 研修委員長 中村光宏が行い、成功裡に閉講した。

記事・写真 斎藤 利之 情報委員会（東久留米市）

研修会



女性委員会企画研修会

令和3年12月5日（日）13時30分より、中野区産業振興センター（大会議室）にて、令和3年度女性委員会企画別研修会（以下、「研修会」と称す）が実施された。はじめに、一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会 副会長 島田泰子より（会長が欠席）、まず、ご出席の皆さまへの日頃からのご協力に対して感謝の意が述べられ、一方、先に行われた東京2020パラ大会に関して、パラリンピック選手の活躍やその報道の在り方に関して、より多くの関心が高まったのではないかと挨拶があった。

次に、東京都オリンピック・パラリンピック準備局パラリンピック部 障害者スポーツ課課長代理の仁平洋介様より、東京都のキャラバン事業などの紹介の後、東京2020オリパラのレガシーとして、東京都とスポーツ推進委員の皆さまと連携・協力をする事は非常に肝要であり、その一つとして、この研修が実施されていると理解している。今後とも皆さまのご協力を切にお願いし、改めて期待している旨の説明があった。

受講者・スタッフ：45名（ZOOMによる配信は無し）。

【研修会内容】

<第1部（講演）：14:00～15:00>

テーマ：『テコンドーの魅力』

講師：田中 光哉 選手

1992年生まれ、洪人館テコンドー所属 先天性両前腕尺側欠損という障がいにより著しい機能障害がある。約5年前、障がい者スポーツをサポート・普及（広める）仕事をする中で、パラテコンドーという競技を知り始めた。



<講演概要>

まず、これまでの生い立ちからご自身の障害の特性など、分かりやすく説明を頂いた。次に、現在所属している企業との関係性やトレーニング頻度、その方法などの説明があり、国際大会における現在の立ち位置（ご自身）や今後の国際大会でのポイントレースに関して、フランス2024パラ大会への目標などが示された。更に、テコンドーそのもののルールや健常者テコンドーとの違いなどの説明があり、その後、「蹴り」の実演が行われ、参加者から2名が名乗りを上げ、観ていた参加者から大きな歓声が上がった。

その後、東京2020パラ大会におけるテコンドーの映像なども紹介され、VTRを見ながら（技などの）詳細な説明があった。特に、テコンドーは、パラ競技の中では唯一フルコンタクトのスポーツであり、そのような視点からその魅力について語られた。また、東京2020パラ大会における選手村の中の様子などもご紹介頂いた。

最後に、「障害への受容」に関して、ご自身の経験や

両親の障害（自分）に対する考え方など、具体的（跳び箱、鉄棒、リコーダー、縄跳び等）な事例をもとに語られた。静かに語られながらも非常に感動的な話だった。



<第2部（グループワーク）：15:10～15:55>

テーマ：『障がいに応じた指導の工夫』

講師：田中 光哉 選手

進行：一社）東京都スポーツ推進委員協議会

飯ヶ谷 美恵(財務)

はじめに、田中選手からパラリンピック概要および各競技について説明があった。その後、グループワークのテーマ等について、以下の概要が示された。

○グループで考える時間：「15分程度」

○グループ数：6グループ（各5～6名程度）

○テーマ：「上肢障害のバドミントン未経験者がやってきた・・・」

- 指導方法を考えてみよう？
- ラケットの持ち方は？
- ラケットの振り方は？（オーバー・バック）
- ルールの工夫は？
- その他指導のコメントは？

※田中選手をモデルとして考える。

グループワーク後、各班による発表があり（田中選手を実際のモデルとして）、養生テープなども使い、具体的な指導方法を提案された。そして実際に、考えた方法に沿って、田中選手に実演して頂き課題などを共有した（田中選手の感想も含め）。



閉講式

一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会 副会長 岡田 眞由美より、田中選手への感謝が示され、閉講の挨拶があり終了した。

記事 斎藤 利之 情報委員会（東久留米市）

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

編集後記

皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。昨年10月に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が全面的に解除になりましたが、各地区のスポーツ推進委員の皆様の活動も、年度の半分に渡り行えない状態が続いたことと思います。

幸い新規感染者数が抑え込まれてきましたが、我々スポーツ推進委員は「with コロナ」時代に、「どの様にスポーツと接し、普及活動を行うか」を考えさせられる時代となりました。

※この「東京都スポーツ推進委員だより」は、そんな皆様に有益な情報を発信していくものです。ホームページ共々日々の活動にお役立てください。

編集 情報委員会 加来 剛（豊島区）

#####